

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名		関西外国語大学			設置者名		学校法人 関西外国語大学		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)				
学部	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業 者数	免許状 取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
英語キャリア学部	英語キャリア学科	120人	中一種免(英語) 高一種免(英語)	平成23年度 平成23年度	/	/	/	/	
外国語学部	英米語学科	1,200人	中一種免(英語)	昭和41年度	1,679人	166人	166人	86人	
			高一種免(英語)	昭和41年度			166人		
	スペイン語学科	250人	中一種免(スペイン語)	昭和41年度	280人	7人	7人	2人	
			高一種免(スペイン語)	昭和41年度			7人		
国際言語学部	国際言語コミュニケーション学科	700人	中一種免(英語)	平成10年度	645人	49人	49人	16人	
			高一種免(英語)	平成10年度			48人		
入学定員合計		2,270人	合計		2,604人	222人	457人	104人	
大学名		関西外国語大学(大学院)			設置者名		学校法人 関西外国語大学		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)				
研究科	専攻等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業 者数	免許状 取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
外国語学研究科	英語学専攻	15人	中専免(英語)	昭和48年度	8人	2人	2人	2人	
			高専免(英語)	昭和48年度			2人		
入学定員合計		15人	合計		8人	2人	4人	2人	
大学名		関西外国語大学短期大学部			設置者名		学校法人 関西外国語大学		
学部・学科等の名称等			認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況 (平成22年度)				
/	学科等	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業 者数	免許状 取得者数		教員 就職者数	
						実数	個別		
/	英米語学科	900人	中二種免(英語)	昭和30年度	1,167人	2人	2人	0人	
入学定員合計		900人	合計		1,167人	2人	2人	0人	
備考	・「学部・学科等の名称等」欄は、平成23年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。								

実地視察大学に対する講評

実地視察日：平成23年12月19日（月）

実地視察大学：関西外国語大学・関西外国語大学短期大学部

実地視察委員：大坪治彦委員、高旗浩志委員、八尾坂修委員

■ 大学の教員養成に対する全般的な状況

<状況>

（大学）

- ・ 大学では3学部4学科、大学院では1研究科1専攻で教員養成を行っている。（短期大学部）
- ・ 1学科で教員養成を行っている。

<講評>

- ・ 教職課程の充実ぶりと、質の高い教員の養成への熱心な取組は大いに評価できる。

■ 教員養成に対する理念、設置の趣旨等の状況

<状況>

- ・ 「情熱・使命感」、「専門性」、「社会性」、「人間性」等において、優れた資質能力を有する教員を養成するという社会的要請に応えることを教員養成の基本理念としていることから、教職課程の全学的組織である「教職英語教育センター」の運営委員は現職経験者を多数起用し、現場のニーズに合わせた教員養成を目指している。
- ・ 国際社会で必要とされる国際共通語としての英語のコミュニケーション能力を生徒に身に付けさせることができる英語教員を養成することで、日本人に対する英語教育を抜本的に改善し、日本人の英語運用能力のボトムアップを図る。それにより、世界から理解・信頼され、国際的プレゼンスを高めることで、日本が一層発展するために高等教育機関として貢献することを、教職課程の設置趣旨としていることから、教育委員会等との連携をとりながら、さまざまな英語教育における社会貢献事業を行い、そこに学生を派遣することで、児童生徒を直接指導する機会を作り、学生の教師力向上に取り組んでいる。

<講評>

- ・ 教員養成課程の設置構想が明確であり、それを具体化するための教職課程に関する全学的な組織、教育課程や教員組織が十分に整備され、機能している。

■ 教育課程（教職に関する科目等）、履修方法及びシラバスの状況

<概要>

- ・留学する学生が多いことから特色のあるカリキュラム編成となっており、質の高い教員養成を目指している。
- ・特別支援学校の英語教諭として配属される学生も多数いるため、教職課程の授業の中で、発達障害を持つ生徒が普通学級にいることを想定したロールプレイングを適時行っている。

<講評>

- ・教職に関する各科目で要求されている内容を理解し、必要な内容を十分に満たした授業が実施されている。
- ・同じ名称の授業科目を複数開講し、それぞれ担当する教員が異なる場合に、授業の内容が異なる場合があるが、教員免許状を授与する課程が、いわゆる資格課程としての標準性と、大学における養成としての多様性の両面があることを踏まえ、当該科目の内容については、教育職員免許法施行規則に定める各科目の趣旨に則った上で、貴学の教員養成ポリシーを踏まえた内容とするよう調整を図ること。
- ・全ての学部・学科において、特別支援教育関連の科目が開設されていないが、特別支援教育は「特別支援学校」だけに限定されるものではない。教職に就く全ての学生が特別支援に係る課題に直面する場面があると予想されることから、特別支援教育の重要性を視野に入れた取組を進めてほしい。

■ 教育実習の取組状況

<状況>

- ・教育実習履修予定者全員を対象に教育実習事前面接を行い、教育実習へ派遣するかどうかを判断している。
- ・教職課程の履修にあたって、年次ごとに必要最低限のTOEFLの得点を定めている。また、教育実習事前指導の中で、発音・音声表現力に関する試験を実施し、評価が低い場合は個別指導を行うなど、養成する教員の質の保証に努めている。
- ・教職英語教育センター運営委員会を中心に大阪府教育委員会や枚方市教育委員会を始めとした近隣の教育委員会と連携し、母校以外の実習校を確保できるよう取組を進めている。

<講評>

- ・母校以外の実習を進めようとする姿勢は大いに評価できる。今後も近隣の教育委員会との連携を図り、更なる体制の充実に努めること。

■ 学校現場体験・学校ボランティア活動などの取組状況

<状況>

- ・ 教育委員会等との連携をとりながら、小学校から高等学校まで、それぞれの段階ごとに、学校現場へ教職志望の学生を派遣し、授業補助や放課後学習の支援を行っている。
- ・ 特に、枚方市小中学校一貫英語教育特区事業の支援プログラム「小学生学びングキャンパス」においては、学生が企画・運用に関わることで小学生を直接指導する経験を積むとともに、授業の組み立てなどの学級経営力も含めた教師力向上のきっかけとしている。
- ・ 地域国際化支援プログラムとして、留学先での学校ボランティア等も行っている。

■ 教職指導及びその指導体制の状況

<状況>

- ・ 大学では卒業までに計8回、短期大学では計5回の教職課程ガイダンスを行い、教職を志す学生の段階的なサポートにあたっている。
- ・ 教職課程の履修にあたって、年次ごとにTOEFLで大学の定める点数を取得するよう指導を行い、学生の英語力の確保を図っている。
- ・ 3年次秋学期から1年間留学する学生が多いが、教職を目指す学生用に5週間の短期海外研修を設けたり、留学先でTESOLなどの英語教育に関する資格を取得させたりするなど、長期間教職から完全に離れることのないよう工夫を行っている。
- ・ 教員就職率は教員免許取得者数のうちの47%に及んでいる。また残りの53%の学生の中には海外での教職を目指す学生もいる。

<講評>

- ・ 大学全体で、学生に対して指導すべき内容を系統化して、質の保証も視野に入れた教職指導が行われていると考えられる。
- ・ 短期大学は、4年制大学への編入学を中心とした取組を行っていることにより、教員就職者数が「0人」という状況が続いているが、教職課程を置く短期大学として、編入学以外の進路も視野に入れた教職指導を行うこと。

■ 教員養成カリキュラム委員会などの全学的組織の状況

<状況>

- ・教職課程の運営や教職指導を行う全学的組織である、「教職英語教育センター」を設置している。同運営委員は12名中10名に現職経験者を起用し、現場のニーズを反映したカリキュラム編成に取り組んでいる。
- ・教育実習においては、「教職英語教育センター」に加え、「教育実習委員会」や「教務委員会」が連携するなど、教職英語教育センターを中心に据えつつ、各専門の委員会を置くことで、一元的な管理と学生に対するきめ細かなケアの両方を実現している。

<講評>

- ・今後も、教職英語教育センターの運営委員を担当している特定の教員に過度に負担がかからないような体制を維持して教職課程を運用するよう努めること。

■ 施設・設備（図書等を含む。）の状況

<講評>

- ・教職に関する科目に係る図書、教育関係雑誌等の資料等が充実しており、教育に関する実践的指導力の向上を図るための設備が十分に備えられている。